

経済統計 練習問題

第24回 景気指標(2)

2008年1月8日

問1 下の表1は景気動向指数(DI)の一致系列について、1998年1月から2007年9月までの数値を示したものであり、それを折れ線グラフにしたものが図1である。これらの図表をもとに景気の山、谷がいつの時点であるかを答えよ。ただし、景気の山、谷の決定については次のようなルールを適用すること。

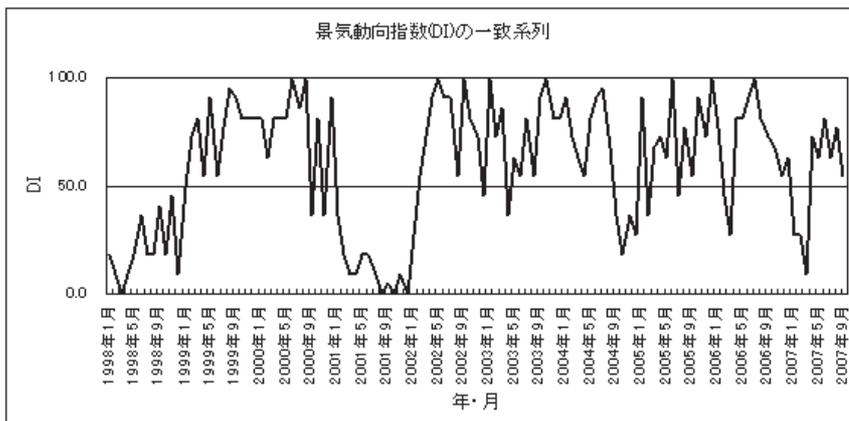
5ヶ月ルール 指数が拡張期から後退期に入ったことを示す場合、その後5ヶ月間後退期となる数値を示したならば、その最初の月を景気の山とみなす。景気の谷についても同様で、その後5ヶ月間拡張期となる数値を示す必要がある。

景気の山		景気の谷	
年	月	年	月

表1

年・月	DI	年・月	DI	年・月	DI	年・月	DI	年・月	DI
1998年1月	18.2	2000年1月	81.8	2002年1月	27.3	2004年1月	90.9	2006年1月	77.3
1998年2月	9.1	2000年2月	63.6	2002年2月	54.5	2004年2月	72.7	2006年2月	45.5
1998年3月	0.0	2000年3月	81.8	2002年3月	72.7	2004年3月	59.1	2006年3月	9.1
1998年4月	9.1	2000年4月	81.8	2002年4月	86.4	2004年4月	54.5	2006年4月	81.8
1998年5月	18.2	2000年5月	81.8	2002年5月	100.0	2004年5月	81.8	2006年5月	81.8
1998年6月	31.8	2000年6月	100.0	2002年6月	90.9	2004年6月	90.9	2006年6月	90.9
1998年7月	18.2	2000年7月	86.4	2002年7月	90.9	2004年7月	95.5	2006年7月	77.3
1998年8月	18.2	2000年8月	100.0	2002年8月	54.5	2004年8月	81.8	2006年8月	81.8
1998年9月	40.9	2000年9月	36.4	2002年9月	100.0	2004年9月	36.4	2006年9月	50.0
1998年10月	18.2	2000年10月	81.8	2002年10月	81.8	2004年10月	9.1	2006年10月	68.2
1998年11月	45.5	2000年11月	36.4	2002年11月	63.6	2004年11月	36.4	2006年11月	54.5
1998年12月	9.1	2000年12月	100.0	2002年12月	36.4	2004年12月	27.3	2006年12月	63.6
1999年1月	50.0	2001年1月	36.4	2003年1月	100.0	2005年1月	90.9	2007年1月	27.3
1999年2月	72.7	2001年2月	18.2	2003年2月	72.7	2005年2月	36.4	2007年2月	27.3
1999年3月	81.8	2001年3月	9.1	2003年3月	86.4	2005年3月	72.7	2007年3月	9.1
1999年4月	54.5	2001年4月	9.1	2003年4月	18.2	2005年4月	72.7	2007年4月	72.7
1999年5月	90.9	2001年5月	18.2	2003年5月	63.6	2005年5月	63.6	2007年5月	63.6
1999年6月	54.5	2001年6月	18.2	2003年6月	54.5	2005年6月	100.0	2007年6月	81.8
1999年7月	77.3	2001年7月	9.1	2003年7月	81.8	2005年7月	45.5	2007年7月	63.6
1999年8月	95.5	2001年8月	0.0	2003年8月	54.5	2005年8月	77.3	2007年8月	77.3
1999年9月	90.9	2001年9月	4.5	2003年9月	90.9	2005年9月	63.6	2007年9月	54.5
1999年10月	81.8	2001年10月	0.0	2003年10月	100.0	2005年10月	81.8		
1999年11月	81.8	2001年11月	9.1	2003年11月	81.8	2005年11月	63.6		
1999年12月	81.8	2001年12月	0.0	2003年12月	90.9	2005年12月	90.9		

図1



問2 下の表2は日銀「短観」業況判断DIについて、1998年第 四半期から2007年第 四半期までの数値を示したものであり、それを折れ線グラフにしたものが図2である。これらの図表をもとに景気の山、谷がいつの時点であるかを答えよ。

ただし、景気の山、谷の決定については、指数が拡張期から後退期に入ったことを示す場合、2期間連続で後退期となる数値を示したならば、その最初の期を景気の山とみなす。景気の谷についても同様に、2期間連続で拡張期となる数値を示す必要がある。

景気の山			景気の谷		
年	第	四半期	年	第	四半期

表2

年・四半期	DI	年・四半期	DI	年・四半期	DI	年・四半期	DI	年・四半期	DI
1998	-35	2000	-23	2002	-41	2004	-5	2006	5
1998	-42	2000	-18	2002	-32	2004	0	2006	6
1998	-48	2000	-15	2002	-30	2004	2	2006	6
1998	-49	2000	-14	2002	-28	2004	1	2006	8
1999	-44	2001	-22	2003	-26	2005	-2	2007	8
1999	-37	2001	-27	2003	-26	2005	1	2007	7
1999	-32	2001	-36	2003	-21	2005	2	2007	4
1999	-26	2001	-40	2003	-11	2005	5	2007	2

図2

